

## 音楽総合研究センター開設科目について

### 0. はじめに

「音楽総合研究センター」では、主に実技系修士・博士学生を対象として、修士論文および博士論文執筆に向けた音楽研究の基礎習得を目的とした科目を開講しています。以下を読み、自身の研究および論文執筆に向けて「音楽創造・研究センター」開設科目を最大限有効活用できるように努めてください。

### 1. 開設科目名

開設科目は『大学院研究基礎（演習）Ⅰ・Ⅱ』（前期・後期ともにⅠ・Ⅱの両方を隔週で開講、半期完結）および『大学院論文作成（実習）』（毎週開講、各期2コマ開講）の2つです。前者は演習（ゼミナール）形式で、音楽領域の専門的研究の基礎（研究テーマとアプローチの決め方、資料の活用法とマナー、章立てと論文の構成、Wordの使い方、参考資料のまとめ方、修士／博士論文作成計画の立て方等）を学ぶ授業であるのに対し、後者は基本的に研究論文執筆に必要な指導を1対1でおこなうものです。詳しくはシラバスを確認してください。

### 2. 対象学生

両科目とも修士および博士課程在籍者であればだれでも履修できます。ただし『大学院論文作成（実習）』を履修するためには、『大学院研究基礎（演習）Ⅰ』を履修済もしくは履修する必要があります。また、両科目とも、基本的に、芸術実践（演奏、創作等）と関連した研究題目の論文執筆の指導が中心となりますので、実技系の学生を主な対象としています（実技系とは、作曲・演奏を専攻する学生および音楽文化学のうち論文以外の実践的要素が重視される専攻の学生を指します）。

### 3. 履修にあたっての注意事項

履修にあたっては、以下の点に留意してください。

- ・ 修士論文・博士論文とも、主たる指導は当該学生の所属する科の指導教員がおこないます。これは、「音楽総合研究センター」開設科目の教員がおこなう指導は、あくまでも音楽研究に伴う基礎的事項を学んだのちの、研究テーマの文脈付けや資料収集、研究方法の選択や論文の構成などに関わる副次的な指導であり、研究および論文執筆作業自体は当該科の指導教員との密な連携のもとにおこなわれることが前提となっていることを意味します。
- ・ どのような領域であろうと、専門的研究には研究者が主体性をもって臨むことが重要です。これは別の面から見れば「何を研究したいのか」という問いもさることながら「なぜ〇〇を研究したいのか」という問いに向き合うことを意味しています。本人の「なぜ」なくしては、どのような研究支援も成立し得ないことをよく心得てください。

- ・ 「音楽総合研究センター」開設科目は、履修生の修士論文・博士論文の添削を目的とはしていません。
- ・ 『大学院研究基礎（演習）Ⅰ・Ⅱ』および『大学院論文作成（実習）』内での指導内容については、学生自身が責任をもって所属科の指導教員に伝えるようにしてください。
- ・ 両科目ともに成績・単位が付与され、成績評価の際には出席が重要視されます。
- ・ 両科目とも原則として履修登録が必要です。事情により、履修登録をせずに受講したい場合は、両科目の担当教員に、必ず初回授業の際に相談してください。
- ・ 両科目とも反復して履修することは可能ですが、各科の定めた履修規定内に留めるよう、各自で注意して履修登録をおこなってください。

#### 4. 音楽学部における全科共通類似科目

音楽学部には、実技系学生を主な対象とした研究指導を目的とする以下の科目が開設されています。内容がそれぞれ異なりますので、自身のニーズに見合った科目を履修するようにしてください。各科の履修規定以内であれば、複数科目の同時履修も可能です。

- ・ 『音楽研究基礎』

楽理科の専任教員が開設する科目で、実技系修士・博士学生への研究指導を目的とするものです。これらも「音楽総合研究センター」開設科目と同様、研究および論文執筆作業にあたっての当該科の指導教員と学生間の密な連携を前提とした上でおこなわれる、より専門的な研究指導です。履修登録をする際には、本科目を担当する楽理科教員の専門領域を確認することをおすすめします。

- ・ 『音楽リサーチ法』（楽理科開設）

上記の科目とは異なり、実技系学部生・修士学生が音楽研究をおこなう上での基礎事項習得を目的とするものです。研究論文やレポート執筆にあたっての資料の検索・収集・整理の仕方や利用法、論文巻末の「文献表」の書き方、実践知の言語化・資料化の仕方等を学ぶ科目です。

- ・ 声楽専攻のみ『歌曲分析演習』

修論を執筆する声楽専攻生のための科目。詳しくはシラバスを参照のこと。

不明な点などありましたら、音楽総合研究センター（閲覧室）までお問い合わせください。